

草津市気候非常事態(ゼロカーボンシティ) 宣言を考えてみよう!

令和3(2021)年12月17日(金曜)、市と議会は共同で「草津市気候非常事態宣言」を行い、ゼロカーボンシティを表明しました。これは、地球温暖化による気候変動に対する危機意識を市民のみなさんと共有することで、市をあげて脱炭素社会の実現に向けた行動目標を示すためのものです。

未来は、私たち一人ひとりの、これからの自発的な行動に委ねられています。今一度、気候変動による危機に対して自分に何ができるのかを考え、行動するとともに、共に協力し合いながら、ゼロカーボンシティを目指していきましょう。

草津市 環境経済部

ゼロカーボンシティとは

2050年にCO2(二酸化炭素)を実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指すことを表明をした地方自治体などを指します。
(環境省ホームページより)

草津市気候非常事態宣言 宣言文(全文)

～ 2050カーボンニュートラルへの決意 ～



近年、世界各地で、地球温暖化の影響による異常気象が相次いでいます。2015年に採択された「パリ協定」では、産業革命前からの気温上昇を、2℃未満とすることを目指し、1.5℃までに抑える努力を続けていくとしています。日本は、この目標を踏まえ、2020年10月に、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル」を目標に掲げました。

草津市には、市民、事業者、団体等と市役所の協働により、地域の地球温暖化対策を進めてきた歴史があります。2007年には、「愛する地球のために約束する草津市条例」を制定して、みなさんと市長が地球のために約束する協定を結ぶことで、協力し合って地球温暖化を防ぐとともに、その後、気候変動に適應するための仕組みを作りました。また、2009年には、私たちがそれぞれの枠組を超えた協力体制のもと、地域ぐるみで地球温暖化対策を進めるための組織として、「草津市地球冷やしたい推進協議会」を設立して、様々な取組を行ってきました。

気候変動による危機が迫るなか、今一度、私たち一人ひとりが脱炭素社会づくりに向けて自らの役割を確認し、より積極的な行動に移す時が来ています。そこで、草津市は、SDGsの理念を踏まえ、それぞれの役割の中で取組をさらに進めるとともに、共に協力し合うことで、2050年カーボンニュートラルの実現を目指して、ここに草津市気候非常事態を宣言します。

令和3(2021)年12月17日

草津市長 橋川 渉

草津市議会議長 伊吹 達郎

2050年カーボンニュートラルの実現を目指して

草津市環境経済部 部長 寺田 哲康

環境経済部の寺田です。ご承知のとおり、国はカーボンニュートラルを目指すということで宣言をしております。本市におきましても昨年12月17日に市と議会が共同して草津市気候非常事態宣言を行いゼロカーボンシティを目指す表明をさせていただきました。



講演というのは、ちょっとおこがましいので、非常事態宣言に至るまでの、これまで本市が啓発用に編集した環境の取り組み等の動画がありますので、先ず、それを見ていただいた後で、お話、ご意見をお聞きしたいと思います。

これまでの経緯



草津市が地球温暖化対策に本格的に取り組むようになったきっかけは、2005年2月に発効された京都議定書でした。京都議定書目標達成計画の中の、市町村に期待する事項として、啓発を重点に地域の実情に応じた取組をすることが掲げられました。



2007年は、草津市にとって、地球温暖化対策の大きな転換点となりました。地球の危機的な状況を知り、理解し、行動を促すため、「地球温暖化防止フェア in びわこ・くさつ」という大規模なイベントを、烏丸半島で開催しました。子どもたちが、「南極の氷」を触ったり、昭和基地の隊員とテレビ電話による交信をしたりすることを通して、危機的な地球

温暖化の現状を知る機会となりました。

会場には、イオンモール株式会社様のほか、今回の地球冷やしたい推進フェアに御出展や御協力をいただいている、滋賀県地球温暖化防止活動推進センター様、大阪ガス株式会社様、関西電力、現在の関西電力送配電株式会社様、草津市「小」エネルギー推進市民フォーラム様、滋賀グリーン購入、現在の滋賀グリーン活動ネットワーク様、ダイキン工業株式会社様にも、啓発ブースを設けていただきました。



そして、このフェアと並行してすすめたのが、**愛する地球のために約束する草津市条例** の制定でした。

2007(平成19)年12月制定 2020(令和2)年6月改正

愛する地球のために約束する草津市条例

私たちが、日々の暮らしの中で、二酸化炭素などの温室効果ガスを増やしてきたことで、地球温暖化が進み、地球にさまざまな影響がでています。夏は非常に暑い日が、冬は暖かい日が以前より多くなっています。このまま地球温暖化が進み、異常気象のおきる回数が増え続けると、私たちの暮らしや社会、地球上の生き物は、さらに大きな被害を受けることになります。

今こそ、私たち人間は、地球上の生あるすべての中の一員として、限りなく持続可能な共生を続けていくために、何を行わなければならないのか真剣に考え、行動することが求められています。

身近なことから、できることから、地球のために良いことを始める「私たち一人ひとりが自ら進んで、あるいは多くの人たちが手と手をとり合って」そして自然の摂理を大切にし、地球を愛し続ける決意を込めて、地球温暖化を防ぐとともに気候の変動に適応するための条例を制定します。

(目的)

第1条 この条例は、草津市の環境に対する基本的な考え方を決めている草津市環境基本条例(平成9年草津市条例第10号)により、市役所、市民および事業者ならびに学校、町内会、グループなど(これからは「団体等」と呼びます。)ならびに草津市を訪れた人の役割を明らかにし、地球のために約束する協定(これからは「協定」と呼びます。)によって、それぞれが地球温暖化を防ぐとともに気候の変動に適応するための取り組みを行い、またそれに協力することにより、私たちがこれからも健康で豊かな生活が送れることを目的とします。

この条例の特徴は、制定した時点で、今日の世界の目標であるSDGsにつながる、**持続可能な共生の重要性**について前文で触れていること、

未来を担う子どもたちへも語りかけるため

- ① ルビをふったこと、
- ② 市民、事業者、団体、市役所の役割を明確にしたことがあげられます。

地球温暖化防止に向けた市民運動

そして、草津市では、市民や事業者のみなさんと一緒に、自主的な取組を進めることで草の根的に運動が地域に広がることを最終目標としてきました。



その象徴となりますのが、この「草津市地球冷やしたい」ロゴマークです。地球とエコの「e(イー)」をモチーフにし、温暖化の地球が汗をふきつつ、うちわで涼をとる姿をあらわしており、地球温暖化防止市民運動への参加を呼びかけるものです

地域ぐるみで地球温暖化対策を進めるための仕組みづくり

2009年には **草津市地球冷やしたい推進協議会** が設立されました。

この協議会は、市民、企業、町内会などが、それぞれの枠組みを超えた協力体制のもと、地域ぐるみで地球温暖化防止の取組を進めるための組織です。

草津市地球冷やしたい推進協議会 設立趣意書

近年、わが国においても集中豪雨や過去最大規模の台風上陸、最多の真夏日など多くの異常気象が見られるようになってきました。地球温暖化は、今世紀最大の環境問題として、国境を越えて解決しなければならない喫緊の課題であります。

草津市は、これまで京阪神圏のベッドタウンとして、急激な発展を遂げてきました。私たちは、生活の豊かさ、便利さを求めて、社会経済活動を続けておりますが、このことが地球環境に少なからず影響を与えていることは確かです。

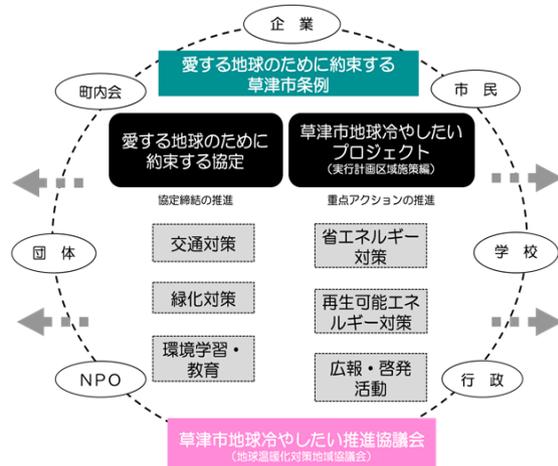
本市の温室効果ガス排出量は、人口や世帯、店舗の増加により、民生(業務・家庭)部門、運輸部門で著しく増加している傾向にあります。これまでのライフスタイルや経済活動を続ける限り、着実に進行していく地球温暖化に脅かされることになります。私たちの未来を担う子孫から、美しい自然や、豊富な資源を奪い、いずれば子どもたちが安心して暮らせる環境を失うことになるのです。今こそ、私たち一人ひとりが温暖化防止に向けて行動しなければなりません。

本市では、これまで地球温暖化対策として、平成19年度に、現在直面する地球の危機的な状況を知り、理解し、行動を促すため「地球温暖化防止フェア in びわこ・くさつ(H19.10)」が開催され、また、このまちで暮らし、働き、学び、行き交うすべての市民が愛する地球を守るために、できることから始め、そしてその決意を市長と約束する「愛する地球のために約束する市条例」(H20.4.1施行)が制定されました。さらに本年度は、地球温暖化防止市民運動を構築するための具体的な計画として「草津市地球冷やしたい」プロジェクト(H21.3)が市民との協働により策定されたところです。

このような中、市民、事業者、団体等と行政がそれぞれの枠組みを超えた協力体制のもと、地域ぐるみで地球温暖化対策を進めるための組織として「草津市地球冷やしたい推進協議会」を設立することといたしました。

平成21年1月29日

発起人:草津市地球温暖化対策アクションプラン策定委員会



さらに、この地球温暖化対策市民運動を構築するための具体的な計画として、「草津市地球冷やしたいプロジェクト」を策定しました。
計画は概ね4年ごとに見直し、今年度から第4次計画の取組をはじめています。



計画の目的

温室効果ガス排出削減および吸収促進に向けた設備や気候変動の影響に備える取組を行う各主体(市民、事業者、団体、市)が一丸となって脱炭素社会への転換を図るための行動指針として、まずは脱炭素社会の実現に向け、地域の特性を踏まえた地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進することを目的とします。

計画の期間

2021(令和3)年度から2024(令和6)年度までの4年間とします。菅内閣総理大臣所信表明で温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロにする表明を受け、国では地球温暖化対策の推進に関する法律の改正や地球温暖化対策の見直しが予定されており、また、県でも「しが CO2ネットゼロ」ムーブメント」キックオフ宣言が行われており、国や県と整合を図るため、計画の期間中であっても必要に応じて見直しを行います。

計画の目標

温室効果ガス(CO2)の削減において、国の中長期的な削減目標および滋賀県の削減目標の達成に寄与することを目標とし、草津市独自の施策を推進することで、脱炭素社会への転換を図ります。

市民や事業者のみなさんと一緒になって取り組む

先に述べた条例に基づく取組の1つとして、2008 年には、みなさんと私(市長)とが地球のために約束する協定、すなわち、「愛する地球のために約束する協定」を結ぶことで、協力し合って地球温暖化防止と気候変動対策への取組を市域に広げる事業を開始しました。

愛する地球のために約束する協定証

イオンモール株式会社 イオンモール草津と草津市は、地球温暖化防止に向けて以下のとおり協定し、協働して取り組みます。

1. 協定の内容

イオンモール株式会社 イオンモール草津は、以下のことに取り組みます。

『ECOモールで地域貢献・地球貢献』

- ① 環境に配慮した設備(太陽光パネル、夜間電力を利用した水蓄熱空調等)を運用し、電力消費量を抑えながら商業施設の運営を行います。
- ② 日々の営業活動から排出される廃棄物を可能な範囲でリサイクルを行い、廃棄物処分や埋め立て処分を減らします。
② 家庭用植物油の回収に協力し、バイオディーゼル燃料推進に取り組みます。
③ 毎月11日には周辺の清掃活動を行い、環境美化に努めます。
- ③ 社有車はハイブリッド車を利用し、二酸化炭素などの排気ガスの排出抑制に努めます。
- ③ 新入従業員に対しては、廃棄物の分別の徹底と排出ゴミの減量化に關し、教育します。

■ 草津市は、以下のことに取り組みます。

- 地球温暖化防止の様々な情報提供を行います。
- イオンモール株式会社 イオンモール草津の取り組み内容を市ホームページや各種イベント等を通して広報します。

2. 協定の期間 協定締結日から平成33年4月30日まで
平成30年12月1日

イオンモール株式会社 イオンモール草津 滋賀県草津市
ゼネラルマネージャー 市長 橋川 涉

奥野 勝也

イオンモール株式会社 イオンモール草津

【事業内容】ショッピングセンターの開発と運営管理 【住所】草津市新浜町300
【TEL】077-599-5000 【URL】http://kusatsu.aeonmail.com/index.html



条例に基づく もう一つの取組

くさつエコスタイルコンテスト
草津市地球温暖化防止大賞 2008(平成20)年～



条例に基づくもう一つの取組は、同じく 2008 年に開始した表彰事業で、「草津市地球温暖化防止大賞」、現在の「くさつエコスタイルコンテスト」です。

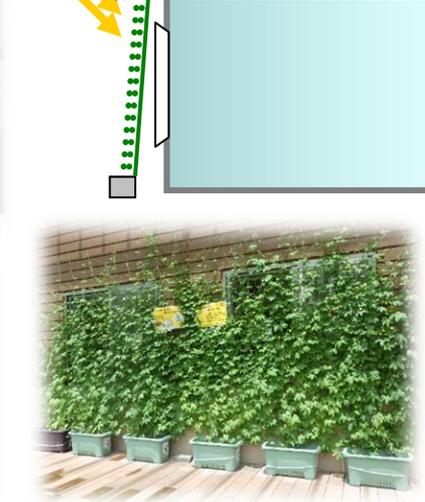


⇒2021 年度からは
エコ新聞を募集
こども部門では
多くの力作がそろいました。

その他にも

ゴーヤーカーテンの普及
2006(平成18)年試行、2007(平成19)年～本格実施

事業があります。



★種から苗を育てる方法

ゴーヤーの種から苗を育てる方法の一例をご紹介します。元々南方の植物で寒さに弱いので、苗の4場所でお育てください。

- 1. 種に水を吸わせる**
5月初旬頃に大きく厚めの種を選んで、発芽させるために水を吸わせます。しかし、種の殻は硬くてそのままでは吸水がつかないので、種の一部、先端が尖っている方をハサミや爪切りなどで1ミリほど切り取ります。
切り取った後に、30度前後のぬるま湯に入れ、温かい場所に1晩～1日ほど置いておきます。やがて種は水分を吸って下に沈んできます。この沈んだ種を使います。
- 2. 種の発根**
1で沈んだ種をいったん水から出し、浅めの容器にガーゼなどをひいた上に置きます。容器には、種が半分と少しかかる程度に水を入れ、温かくて暗い場所に置いておく。数日～2週間程度で、切り取った部分から白い根が生えてきます。水切れしないよう、水分は時々確認してください。
- 3. 苗ポットへの植え替え**
根が数ミリ以上伸びたら、苗ポットに植え替えます。苗ポットに土を入れ、使用済み割りばしなどを利用して深さ2～3センチ程度の穴をあけ、根を下側にして種を入れ、軽く土をかぶせます。日あたりの屋外か、屋外であれば日陰をかきよせるなど、暖かい場所に置いて夜に霜寒が下がりにくいようにしてください。水は植え替えの直後と、1日1回、朝にあげてください。数日～2週間くらいの間には土の中から芽が出てきます。双葉の後にギザギザの本葉が2～3枚広がった頃ぐらいから、プランターなどに植え替えてあげましょう。

【種知識】
お店で売られている苗や種は、形の良い実がたくさん取れるように品種改良された「F1」と呼ばれる世代であることが多いですが、F1世代から採れた種を育てた場合、親の代であるF1世代と同じ特徴にならず、良くも悪くもF1世代の元になった世代の特徴が出てくる場合があります。

環境学習の推進

具体的には、環境学習教材の貸出や講師の派遣、町内会などでの講習会の開催、体験を通じて楽しく地球温暖化問題について考えるイベントの開催などを行ってきました。



新たな 1 歩

今年度、草津市は、
新たな一歩を踏み出しました。

それが、

「**草津市気候非常事態宣言**」です。

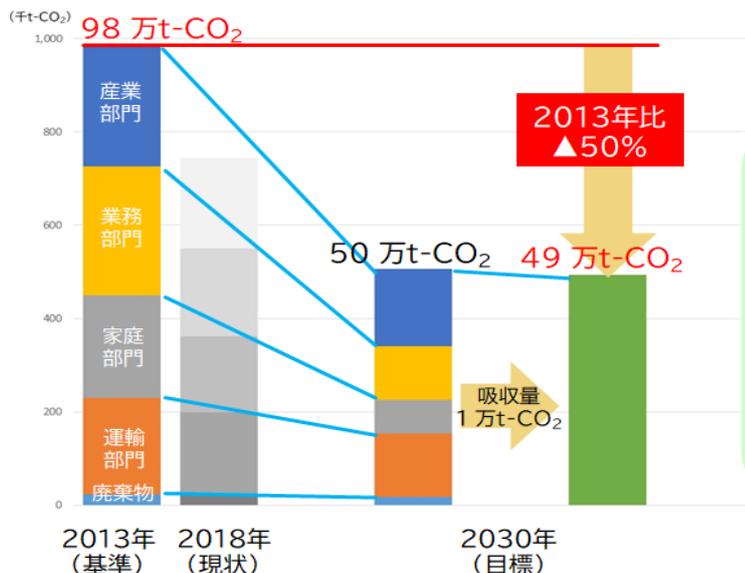
宣言では、これまで述べてきました

取組を振り返りつつ、

脱炭素社会づくりに向けて

“**今一度、各々が何をすべきかを
考えるきっかけにしてほしい**”

との思いを込めています。



草津市の目標

国・県の削減目標の達成に寄与することを目標

温室効果ガス (CO₂) の排出量について、
2030年度に2013年度比で
50%削減を目指します

2050年カーボンニュートラル実現に向けたまちづくり

草津市の地球温暖化対策の体系

基本方針1 未来へつなぐ低炭素スタイルの推進

- 〔1〕 日常生活と事業活動における低炭素対策の推進
- 〔2〕 建物、施設における低炭素対策の推進
- 〔3〕 自動車における低炭素対策の推進
- 〔4〕 環境学習・活動の推進

基本方針2 安全安心な暮らしに向けた適応の推進

- 〔1〕 災害に関する対策の推進
- 〔2〕 健康に関する対策の推進
- 〔3〕 自然環境に関する対策の推進

重点アクション

① 身近なことから低炭素推進プロジェクト

- ①-1 エコアクション推進事業
- ①-2 愛する地球のために約束する協定推進事業
- ①-3 窓断熱推進事業
- ①-4 スマートドライブ推進事業
- ①-5 くさつエコスタイルコンテスト（子ども部門）推進事業

② 安全安心な暮らし推進プロジェクト

- ②-1 ハザードマップウォーキング推進事業
- ②-2 日傘等推進事業
- ②-3 体も地球も元気にプランター菜園推進事業

SDGsは17の目標とそれに付随する169のターゲットから構成される2016（平成28）年から2030（令和12）年までの国際目標です。本計画では事業ごとに関連の深いSDGsの目標を示しています。

重点アクション①-1 エコアクション推進事業



エコ・アクション・ポイント制度を活用して、日常生活における身近にできるエコアクション（環境に配慮した取組）を促進します。

● 市民の取組

エコ・アクション・ポイント制度に参加しましょう。



家庭で環境に配慮した取組をしましょう。

● 事業者・団体の取組

エコ・アクション・ポイント制度を通じて、製品・サービス購入時にポイントを提供しましょう。



事業所や団体内で、環境に配慮した取組をしましょう。



目標

エコ・アクション・ポイント参加世帯数
延べ 600 世帯
(令和3～令和6年度)

重点アクション①-2 愛する地球のために約束する協定推進事業



地球温暖化対策（緩和策・適応策）に取り組む事業者・団体等と愛する地球のために約束する協定を締結するとともに、締結者の取組を広くPRし、締結者の増加を図ります。

● 事業者・団体の取組

地球温暖化対策を実践し、市と協定を締結しましょう。



自らの取組を広く発信しましょう。

他の事業者や団体の取組を参考にしましょう。



目標

愛する地球のために約束する協定締結者数
130 者
(令和3～令和6年度)

重点アクション①-3 窓断熱推進事業



住まいの断熱対策は、「窓」が重要です。冬は窓から約60%の熱が外に逃げ、夏は約70%の熱が外から入ります。窓断熱を行うことで、ヒートショックや熱中症になる可能性を低くするなどの健康面でのメリットがあり、さらには電気使用量などを削減します。

● 市民の取組



窓断熱に取り組みましょう。

CO₂削減効果
年間約31.2kg※1

窓断熱に関する講習会に参加しましょう。

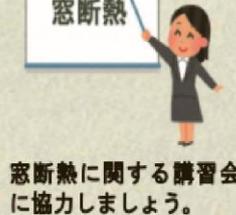


● 事業者・団体の取組

事業所内で窓断熱に取り組みましょう。



窓断熱



窓断熱に関する講習会に協力しましょう。

窓断熱の効果

夏場の暑い空気を遮断し、冬場に温かい空気が外に逃げるのを防ぎます。そのため、エアコンの使用量を抑制することができます。

目標

簡易窓断熱に
取り組んだ市民の数
延べ 240人
(令和3～令和6年度)

※1 窓断熱により暖房の使用量を抑制（設定温度を21度から20度に）したとき。

重点アクション①-4 スマートドライブ推進事業



事業者・団体を対象としてスマートドライブ宣言および講習会を実施します。また、市民への啓発により、燃料の削減による二酸化炭素削減と併せて交通安全を推進します。

● 市民の取組

スマートドライブに取り組みましょう。



ふんわりアクセル
CO₂削減効果
年間約194.0kg

スマートドライブ

ふんわりアクセルなどのエコドライブの実践や、電気自動車の利用など、環境負荷の小さい自動車利用のことを言います。

● 事業者・団体の取組

スマートドライブ宣言をしましょう。



スマート
ドライブ



事業所や団体内で、スマートドライブを呼び掛けましょう。

目標

スマートドライブ
宣言事業者数
延べ 40者
(令和3～令和6年度)

重点アクション①-5 くさつエコスタイルコンテスト（子ども部門）推進事業



地球温暖化に関して、学び、行動につなげる環境学習を推進するため、くさつエコスタイルコンテストにおいて、エコチェックを追加して実施し、優れた取組について表彰します。

● 市民の取組

取り組む地球温暖化対策について、家族で話し合しましょう。



コンテストに応募しましょう。



取り組んだ地球温暖化対策について、絵と文章で表現しましょう。

目標

くさつエコスタイル
コンテスト参加者数
延べ 6,000人
(令和3～令和6年度)

重点アクション②-1 ハザードマップウォーキング推進事業



地球温暖化の影響の一つである豪雨時に適切な避難行動ができるよう、ウォーキングを通して、避難経路や河川、水路などの避けるべき場所を確認する適応策を推進します。

● 市民の取組

防災に関する講座に参加しましょう。



ハザードマップを確認し、実際に歩きましょう。

● 事業者・団体の取組

事業者や団体内で防災に関する講座を実施しましょう。



事業継続計画を策定するなど災害に備えましょう。

目標

ハザードマップウォーキングや講座を実施した町内会数
延べ **80** 団体
(令和3～令和6年度)

重点アクション②-2 日傘等推進事業



熱中症を予防する取組を推進します。特に直射日光を避け、体感温度を下げる効果のある日傘や帽子などの利用を促す適応策を推進します。

● 市民の取組

こまめな水分補給など、熱中症予防に取り組みましょう。



日常生活において、日傘等を利用しましょう。

● 事業者・団体の取組

従業員や団体メンバーに対して、熱中症予防に関する啓発を行いましょう。



エアコンの適切な利用など、熱中症予防に努めましょう。

目標

くさつエコスタイルコンテストに参加した子どもの日傘等利用割合
50%
(令和6年度)

重点アクション②-3 体も地球も元気にプランター菜園推進事業



植物を育てることは、気温や天候の変化など日々の環境に目を向けるきっかけになることから、地球温暖化による気候変動と自然環境への影響を理解し、自然環境保全対策を行うために、身近な場所でのプランター菜園を推進します。

● 市民の取組



プランター菜園に関する講習会に参加しましょう。



プランター菜園に取り組みましょう。

目標

プランター菜園に取り組んだ市民の数
延べ **240** 人
(令和3～令和6年度)

草津市地球冷やしたいプロジェクトに基づく施策をより積極的に展開します。



宣言は、脱炭素社会づくりに向けた通過点に過ぎません。
未来は、私たち一人ひとりのこれからの自発的な行動に委ねられています。

今一度、自らの役割を確認し
取組をさらに進め 共に協力し合いながら
2050年カーボンニュートラルの実現を
一緒に目指していきましょう

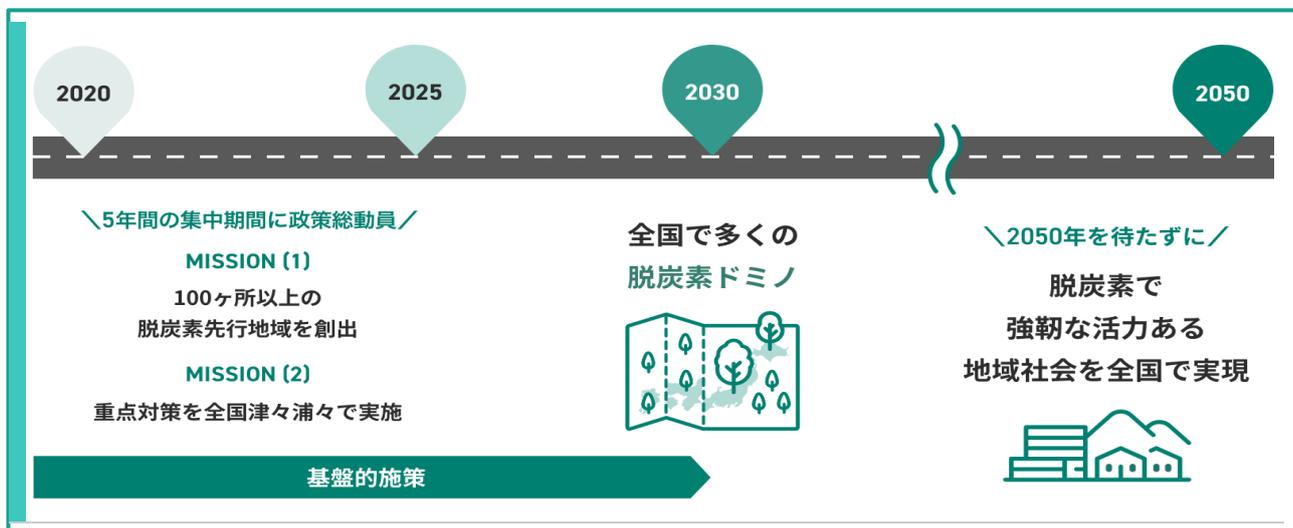
御清聴ありがとうございました。

寺田 見ていただきましたように、草津市は、今回の宣言をする前から温暖化防止の取り組みをしてきました。2030年に50%削減という国、県の目標を、本市もそれに向かって進むべく宣言をさせていただきました。これを達成するには、市民の行動が大事になってきますので、市としては行動の変容を促していけるよう取り組みを進めていきたいと考えております。

具体的な施策については、次年度から「ゼロカーボンシティ元年」と位置づけて頑張っていきたいと思っておりますので、必要なご意見をいただきたいと思います。宜しくお願いします。



**2021年7月9日
国・地方脱炭素実現会議(第3回)で『地域脱炭素ロードマップ』が決定！！**



藤井 そうすると、市民全体が深田さんのような気持ちになっていただくことが、大事ということですね。

寺田 家庭では環境や生活様式の違いがありますので、思うような結果を残せるような見通しは、なかなかと難しいところがありますが、深田さんの話にあったようにSDGsが小学生の年代で話に入れておられるということは、教育も大きなウエイトを占められていると考えられます。環境経済部だけでなく全市的な分野は重要で、学校の教育の中でも語られ、議論されていくことが家庭にまで反映されていくと思います。市全体の総合力として臨むべきということで、今回、特に、市議会が賛同していただいていることで、(宣言文は)市民に対し「市の執行部だけで行うものではなく市民全体で取り組まなければならない」ということを市議会は、うねりを大きくしていかなければならないという強いメッセージ性を持ったものと考えています。

藤井 なるほど、地球のことを考えて、SDGsのことも考えて行動するっていうのは「そんなのあたりまえだよ！」という社会を目指してやっていく。そういう感じですね。

寺田 そうですね。そういうことを実践されているのが、先ほどお話をいただいた深田さんのご家庭に思います。そういうご家庭が1軒でも増えるように市としては汗をかきたいと思います。



大坪 今の話を踏まえた感想となります。確かに教育部門は重要に思います。僕らの時代の環境教育では、SDGsという意識はあまりなかったし、しっかりと実感している人は少ないと思っていましたが、深田さんのお孫さんのような次の世代の人が大人になったとき、「みんな自発的に動ける社会になっていくのかなあ」と思い、すごく感心していました。いいお話をありがとうございました。

藤井 そうか……びっくりするという感覚ですね。深田さんのお孫さんは、何歳でしたか？

深田 今度、中学校にいくんです。外孫なんですが、結構シビアです。SDGsについて小学校で、勉強しているんですね。そして例えば、家の中で「無駄な電気は消しなさい、そうすることで、環境に貢献していける」と言われまして…。

息子も電気関係の仕事に就いていることもあり、「無駄なことは省け！」と一生懸命になって言うんです。私ら年寄は、「こんなことぐらい多少はエエやろう」という感覚をもっているのですが、今のこどもは、おじいちゃんであっても、無駄なことは注意しますね。私は「うるさいなあ」という感じをもちますが、これ(言うことに従うこと)も一つの協力体制と思っています。

藤井 素晴らしいですね。驚いたといいますか、僕らの世代も意識を変えないといけないうなあと思いました。みなさんは、こういったことに出会ったり、自分で実現しようと思ったことがありますか？

飯島 深田さんのお孫さんに感心するばかりです。自分では、家で結構節約しているほうですが、逆に、親は電気をつけておいたほうが楽にすごせる。つけたたり消したりするほうがお金がかさばる(電力消費が大きい)という。その時代の反映かも知れませんが、なかなか伝わりづらいところがある。このように日々の暮らしのなかで、意見が分れることもあるので、客観的に判断できる方法があれば、協力しやすいと思いました。



藤井 寺田さん、どうですか？そういうのは、あったりするのですかね？

寺田 人の行動によって、CO₂がどれくらい削減するかは、なかなか計算するのが難しいのですが、国のほうで、それぞれの指標を示し、CO₂の家計簿のようなもの『うちエコ診断』がありますので、今、言われた「電気を消す」効果はどれほどか？というようなことを感覚的に示せるものはあります。そのようなものを使って人の行動がCO₂の削減にどのような効果があるのかを体験していただくことを情報発信していこうとしています。

国は、電気も再生エネルギー由来の電気の割合を上げていこうとしていますし、メーカーも省エネタイプの商品を開発していくという流れがありますので、皆さんが商品を買って替える場合には、そういう視点で選んでいただく、また、建物を建てる時は太陽光発電としていただくなど、SDGsやゼロカーボンを中心に思い浮かべていただけるようなきっかけと市として発信していきたいと思います。

藤井 身近なところで、すぐに、やれるようなもの、実践できそうなもののメニューみたいなものがあればいいのかなあ。今のように、直接、CO₂の削減に効くのかどうか判らないとしても、SDGsや環境を思い浮かべながら行動していくようになれば、ほかのことにもつながっていった、例えば、「電気をつけっぱなしにすることはやめよう」と行動した人は、ほかのことにも行動するといった、何か、とっかかりとして、「こういったことをすればどうか」というようなメニューがあると行動しやすいように思いました。

福井 1点お伺いします。今、良いお話をお聞きしています。我々(市民)として、少しずつ意識は出てきているのですが、みんな同じレベルで持ち合わせているのかといえば、地球温暖化は、その時は思うけれど日ごろの行動は全くゼロに近い状況にあると思うのです。だから、草津市民の人たちが、そのもの(CO₂の削減)を意識してとりこんでいくためのPRし、浸透させていくということが草津市の課題に思います。

一部の方は、深くご存じだけれど、大半の人間は頭のどこかにあったとしても無意識に行動しているというのが現実のように思われますので、草津市全員にCO₂削減の教育あるいは協力を求めていかなければならないと思います。今後、このことを想定した場合、どのような取り組みをされていけますか？

寺田 今、福井さんが言っていたことは、本当に課題であります。おっしゃるように、市全体で行動を起こしていただく必要がありますし、市としましても、このような動画を作っただけで満足することなく行動を起こしてもらうことが必要と思っています。市全体で行動を起こす、啓発や普及は、どの事業でも課題であると思っています。ただ、地球温暖化に関しましては、テレビ等でも全国的に報じられていますので、市民の方の関心度は高いと思います。

しかし、草津市としてどうしていくのかという点はきちっと示していかなければならないのでいろんな媒体や手法を通じて、また、地域のまちづくり協議会や町内会を通していろんな情報を共有しながら、地域の方のお力をお借りして情報発信を行っていきたくと思っています。これは、待ったなしのことですので、市民の方の危機感をあおるとはおかしいですが意識を持っていただいて取り組んで行く必要があるのかなあ・・と思っています。

先ほどの深田さんのお孫さんが成人する時の基本となるものは、今の私たち大人の行動は次の世代が大人になったときの基本に大きく作用します。今、学習されている深い知識のある方は、その先の世代に引き継がれていくと考えると、今、わたしたち大人が頑張るところ

であると考えます。

福井 ありがとうございました

深田 それと、以前にプランターをもらってリサイクル品を利用させていただいてゴーヤを作っていました。私はありがたく思っていました。

寺田 市としても、以前はプラスチックの再生利用としてプランターを作って市民の方に配付をしていました。最近、国の制度も変わってきて、その流れによって処理をしていますので、今は、やっていませんが、ゴミはきちっと分けて利用すれば、それが資源に変わります。環境経済部はゴミの問題も所管しております。

草津市は他府県から比べると分別に厳しいというお話をいただきますが、単に分けたゴミにしているのではなく資源にするため、これは、家をでる時が第1歩と考えておりますので、ご理解いただき分別活動に協力いただくよう働きかけをしていきたいと考えています。

藤井 このあたりで、草津市気候非常事態宣言のディスカッションを修了したいと思います。

寺田部長、ありがとうございました。
